

動詞 makeのコロケーションから見る使用の傾向

6114129 大山瑛李花

Purpose

一般動詞makeには多くの用法があり、後ろに来る単語は指示語や内容語など多岐にわたる。その多様性を分析し、どのような傾向がみられるかを分析する

Material

ICNALE (International Corpus Network of Asian Learners of English)

- ・タスク：横断的、準備なし、辞書なし、制限時間20～30分
- ・学習者：10の母語、EFL & ESL、大学生英文科3・4年

Method

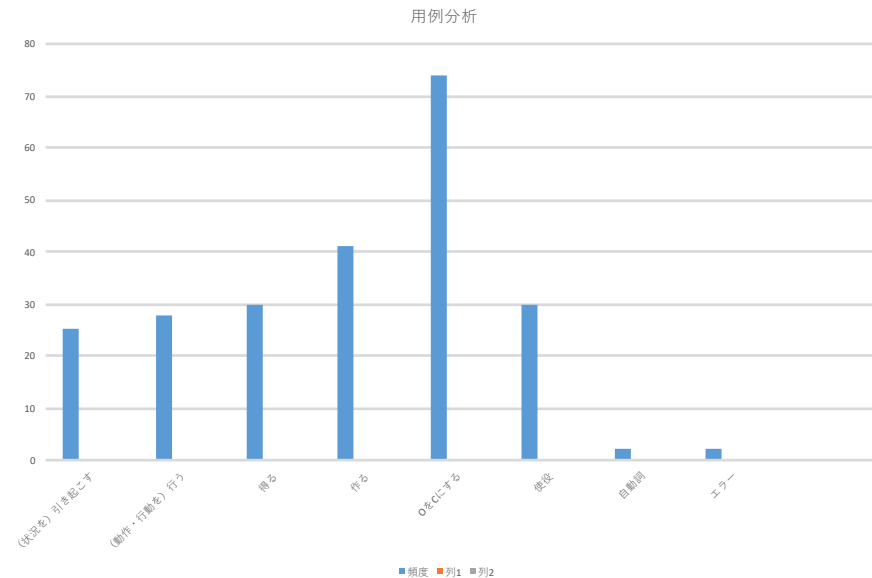
ICNALEの日本人英語学習者A2レベルのライティングエッセイを扱う。

- ・コンコーダンスから用例分析
- ・かたまり語を3語から分析する

Conclusion

Makeではまず「作る」という用法を学ぶが、A2レベルの文章中では「ものを作る」よりも「OをCにする」のように第5文型を構成するためにmakeを使用する頻度が高いということが分かる。

Result



かたまり語	頻度
Make many friends	3
Make money by	3
Make not only	3
Make people who	3
Make friends who	2
Make friends with	2
Make me feel	2
Make nonsmokers lose	2
Make use of	2